



# 尼義 正奈 AMAGI SEINA

■T159 B123 W62 H110

26歳。22歳の時に警官に、24歳で能力者性犯罪対策組織『テミス』に配属住吉警部とボディを組み捜査にあたる優秀で正義感が強くクールだが中身は意外と普通の女子住吉に好意あり

## ■住吉智宏

30歳。警部。正奈のボディ真面目で勤勉正奈とも相性が良く惹かれている。

## ■万才仁人(まんざいじん)

49歳。警視。警察署長セクハラばかりしている上にいい歳してオタク、実は能力者自分の体液を相手に摂取させて同じ趣味性癖にする『癖共有』をもつ。

—この街では  
怪人や能力を持つ  
犯罪者が  
はびこっている…  
その中で性犯罪を  
犯す能力者を専門で  
取り締まっているのが  
警察組織『テミス』…

対能力者スーツに  
適正のある者たちで  
組まれたチームだ  
俺もチームの一員で  
ボディを組んでいるのが  
後輩の……

「住吉(すみよし)先輩…遅いですよ  
この犯罪者は確保しました」  
彼女は『尼義(にぎ) 正奈(あまぎ せいな)』

「11時23分 現行犯逮捕  
睡眠誘発能力で女性たちを  
睡眠強姦…本当に許せまんね」  
正義感が強く実力も折り紙付き  
決して性犯罪者を  
許さないという信念をもつ頼れる相棒で……

「どうしました?先輩?…いつも  
以上にボーっとしてますが」  
俺の想い人だ…



「はあ……スーツは汗臭くなるのが欠点ですね……キワどいし……」  
「余り服装を緩くするなよ、署長に見られたら……」  
「オタクのセクハラ署長ですか……それより先輩  
私が先に容疑者を捕まえたなら……」

「あ……ああ、食事を奢る  
約束だな、わかってるよ」  
「できれば二人きりで……」

「おお、いいところに  
尼義くん」  
「あ……」

署長：セクハラで  
有名なのだが  
何故か女性職員達から  
被害が報告されない……  
それどころか……

「実は君にお願いしたことがあってね  
新スーツのテストと技術部から  
通達があったのだよ」

「……わかりました、お引き受けします」  
「ハハハ、さすが我が『テミス』の  
期待の星だな」  
「なぜだか嫌な予感がする……」  
「任せてください、私がコイツの  
性加害を明るみにしてみせますから」  
「いつもの余裕の笑みを浮かべ  
彼女は署長と共に去っていく……」

「グッ」

「考え……すぎだよな……」

——だが彼女はその日から  
署内で姿を見せなくなった  
別施設でスーツのテスターを  
しているとのことだったが  
スマホでも連絡が取れなくなって……

一月が過ぎた頃……  
署長から呼び出しがあった  
『彼女のことと通達したことがある』との  
ことだった……

不安が大きかったが  
彼女と久々に会えるかもしれないという  
期待と共に扉を開けると……

署長室

状況を飲み込めず  
呆然としてしまった……  
いつも毅然と  
していた彼女が……

頭がおかしくなったような服装をして署長の隣に立っていたからだ……

「せ、先輩っ!?なぜ……」

「ワシが呼んだのだよ」

「セイナたんがお前とのバディを解消して私の専用……」

「……でなく専属秘書になると伝えておこうと思っただけ」

「正奈……たんっ!?」

はぁい  
はぁい

「あら♡」

「そっ……です」

「センパイ……」

「心配いりません……」

「署長は無罪……でした……ぶいっ☆」

グーお……

「なっ……何を言っ……今だってセクハラを……その格好も」  
「これは新しいスーツです……」  
「多少、露出は激しいですが♡」

「そっだよ?」

「それにこれは痴漢対策のトレーニングだからねえ……」  
「それじゃあ報告はしたからねよろしくねっ!」

ま……  
おっ……

「ちよ……ちよっと」

「そんな……あの正義感の強かった」

「正奈が……何があったんだ……」



「さっきの態度はなんだ!? セイナたん」  
「はっ! 申し訳ありません!!」  
オチンポリス正奈は

「ほっ♡」  
「想い人だった先輩を前にして  
『今の私』をさらけ出すことが  
できませんでしたっ!!♡」

「まったく...それでは立派な  
オチンポリスにはなれないよ?  
まだトレーニングが必要かな」

「はっ♡」  
「はっ♡」

「はっ♡」

「はっ♡」  
「はっ♡」

「はっ♡」  
「お詫びと...」  
「署長のデカチン  
取り締らせて  
いただきます!」  
「いぞろ♪許可する♡」

「はっ♡」

「はっ♡」





「勝手にイキまくる変態ポリスには  
まだ躰が必要だね〜」

「はいっ！本当はスーツでも何でもない  
オチンポリスのコス着てしまっ

ドスケベセイナのオマンコとおっぱいを  
お躰お願いしすっ！！

んへ♡♡へへ♡♡」

「はっ！抵抗もできず…  
本当は痴漢行為で  
感じまくっております！！  
…んあ♡♡」

あゝ♡

「はっ！抵抗もできず…  
本当は痴漢行為で  
感じまくっております！！  
…んあ♡♡」

しゅんべん♡  
しゅんべん♡  
しゅんべん♡

「んふふ♡本当に可愛くなったね  
セイナたん♡一ヶ月前痴漢したときは  
あんなに嫌がっていたのに…」

「はい！あの時は署長が性犯罪能力者で  
私を囮捜査に出して  
痴漢してくるなんて  
思いもありません  
でしたのでっ…んほ♡♡」

「でもボクが渡した  
『性犯罪者育成デバイス』の  
おかげで…」

やめろ

性犯罪者め！！

「はっ！抵抗もできず…  
本当は痴漢行為で  
感じまくっております！！  
…んあ♡♡」

しゅんべん♡  
しゅんべん♡  
しゅんべん♡

んふふ♡









署長室









